



あい 愛 逢

第  
22  
号

特定非営利活動法人 愛逢

尼崎市小中島1-20-21

電話 06-6493-1424

FAX 06-6493-1443

発行責任者 坂本敬子

発行日 2008年9月20日

# 最期までどう生きる 最期をどこで迎える

地域での看取りを、みなさんと一緒に考えませんか？  
専門の方々による講演とシンポジウムを企画しました。皆  
さまの参加をお待ちしています。

**講演** 午前10時～午後12時

人生の最終章をあったかい空間で

講師 佐藤伸彦さん

富山県砺波市立砺波総合病院  
地域医療部副部長・内科部長

月日・とき

2008年  
9月28日(日)

午前10時～午後4時30分

**シンポジウム** 午後1時～午後4時30分

「そのとき」を「どこ」で

●シンポジスト

佐藤伸彦さん

市原美穂さん (NPO ホームホスピス宮崎 理事長)

中村大蔵さん (特別養護老人ホーム園田苑 施設長)

桜井隆さん (さくらいクリニック 院長)

●コーディネーター

兼行栄子さん (NPO 法人愛逢 理事)

受講申し込みをされた方々の期待は大きいです。

- ・今までも聖トマス大学で、色々勉強させてもらっているの、今回も行ってみたくて思いました。
- ・私も、もう「とし」ですし、愛逢がする「家」の話も聞いてみたいと思いました。
- ・母が「98歳」、最後まで…ということばにひかれ、聞いてみようと思った。
- ・近年主人を見送った。そのときは必死だったが、落ち着いた今、自分の最後はどうなるのかなと考えるようになったので。
- ・佐藤先生に会えるのを楽しみに申し込みました。佐藤先生のお人柄が大好き、勿論、終末期のことについては色々勉強しています。
- ・このようなテーマで話を聞いたことが無いので、どんなもんかな～という興味を持って申し込みました。
- ・私達も「家」を作りたいと思っているのでお話、お聞きしたいです。

# 愛逢がホームヘルパー養成講座に講師を派遣

NPO法人シンフォニーが実施するホームヘルパー2級養成講座（兵庫県介護員養成研修2級課程に相当）に、愛逢の職員が講師として初めて参加しました。この講座は講義・演習が5月10日～7月16日、実習が7月22日～8月22日と長期にわたるもので、20名の受講生が参加しました。期間中、愛逢にも9名の受講生が「訪問介護事業同行訪問」として実習に訪れました。今回愛逢からは2名の職員が「訪問介護事業概論」、「訪問介護員の職業倫理」及び「訪問介護計画の作成と記録、報告の技術」の3講座を受け持ち、受講生から好評を得ています。受講生の皆さんの今後の楽しみです。

## 講座の目的

誰もが住み慣れた我が家で暮らし続けたいという願いを持っています。ホームヘルパーは、そんな願いを持つ高齢者や障害のある方の自宅を訪問して、家事や介護など様々な援助を行うしごとです。

今、自宅で暮らし続けていくうえで様々な困難を抱える人々に対し、当事者の立場の立った介護従事者が必要とされています。この養成講座は、高齢者や障害児・者、難病患者等に対する介護支援に従事する方の、知識及び技術を習得する研修を行うことを目的とします。（受講生募集の資料より）

## 愛逢の実習生の感想

- ・二日間の訪問ヘルパーの同伴でとても勉強になりました。演習で習ったように実行することは大変だなと思いとても参考になりました。NPO愛逢の職員、担当ヘルパーの方、ありがとうございました。
- ・事業所の雰囲気は良好。ヘルパーさん達も笑顔で活気があり良かった。

## 講師の思い（中田佳代子）

私が講師を引き受けた理由はただただ単純で、その日は若くして亡くなった私の父親の命日だったこと。父親が何かを伝え！何かを言え！と言ってい

るような気がしたので、引き受けました。父の介護に関わっていた時、毎日のことでしたので疲れたときに誰かに代わってほしいなと思っても、その当時は介護保険という制度も無かったので、家族で見るしかありませんでした。

講師として今まで自分が学んだこと、経験したことを伝えられたらという想いでした。2日間一緒に勉強する気持ちで私自身も初心に戻って福祉・介護について考えるいい機会でした。皆さんはとても熱心で真面目な生徒さんでした。

愛逢での実習では一人一人の方と話をする時間を持て、特に介護のことなどについて話ができました。講座の修了後、何人かの受講生の人たちが愛逢のヘルパーとして登録されました。今後はこの人たちと一緒に活動できるのを嬉しく思っています。



# ターミナルケアボランティア 養成講座

あまがさきチャレンジまちづくり助成事業の第2弾として、10月よりターミナルケアボランティア講座がはじまります。看取りの家「ホームホスピス愛逢」の開所に向けて、住まいの確保(ハード)は、最重要課題ですが、一方では、そこにどれだけ多くの人に関心を持ち、関わってくださるかも大きな課題です。その一つがボランティアさんです。講座日程を示します。



日程	テーマ	講師
1回 10月17日(金)	「傾聴とコミュニケーション技法」	阪田 憲二郎氏
2回 10月28日(火)	「生と死を見つめて共に生きる」	沼野 尚美氏
3回 11月11日(火)	「在宅を支える看護師からみた患者さんの気持」	宇野 さつき氏

愛逢のこのような取り組みが毎日新聞(9月8日朝刊)で紹介されています。

## 尼崎のNPO

高齢者介護などに取り組む尼崎市小中島1のNPO法人「愛逢」が、高齢や病気で余命が限られた人たちが「最期の時」を過ごす「ホームホスピス」の開設を計画している。病院ががん患者らの苦痛を和らげる目的で設置している「緩和ケア病棟」は市内に2カ所、県内に8カ所あるが、同NPOでは「医療の場ではなく、生活の場で最期を迎えらるる『家』を作りたい」と設立意義を話す。今月28日には終末期ケアを考える講演会・シンポジウムを開く。



兼行栄子さん

## 最期の時 過ごす「家」を

活動の中心となってアに取り組んだ。女性いるのは、同NPOのは穏やかな日々を過ごすケアマネジャーで、看し、今年4月、93歳で看護師資格も持つ兼行栄子さん(57)。兼行さんは、看護師として診療期を迎えた数人が同じ所に勤務時代、高齢者屋根の下で暮らし、同NPOが地域住民の協力を得ながら、24時間態勢でケアする場を目標だ。その中で「自宅で最期を迎えたい」と希望している高齢者らに、独居や、家族による介護の難しさなどの開設を目指す。

### 「ホームホスピス」計画

講演・シンポジウムから、病院で亡くなっていくケースが多いことに疑問を感じた。ホスピス開設に向け、兼行さんは04、05年、がん患者らが緩和ケアを受けながら最期を迎える神戸市のホスピスに2年間勤務。06年8月からは、身寄りがなく寝たきりとなった尼崎市の女性の要望を受け、同NPOが24時間態勢で自宅でのケアに取り組んだ。女性

28日にシンポ「医療の場ではなく、生活の場で」

### ミッション(社会的使命)

私たちは多様な生き方が尊重され、  
誰もが安心して暮らせる地域を作る為に、  
仲間と支えあい(愛)、つながりあ(逢)っていきます。

# 寄付金をいただきました

(敬称略)

(期間：5月24日～9月10日)

長谷川昭子 特定非営利活動法人 WAC ゆずり葉 胡摩田睦子  
善法寺保育園 藤井小夜 横山良幸 岸田シゲ子 前田禎子 土井喜世子  
の方々に当会の趣旨にご賛同頂き、ご協力頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

## ・ ・ 愛逢のミニデイをどのように楽しまれていますか? ・ ・

利用者さん、お二人にお聞きしました。

兼行照子さん

皆さんと会って歌を歌ったりお話ししたり…。なにより美味しい食事がとっても楽しみ。普段は一人なので皆さんとお話ししながら食べると尚美味しい。体調不良も忘れるほど。

たまの外出も楽しみ。プラネタリウムではとっても良い椅子だったから気持ちよく眠ったわ(笑)。農業公園もよく行ってる。野外での食事最高っ!



若林道子さん

4年程前に腰の手術をし、すごく落ち込んでいた時期がありました。そんな時にお誘いを受け参加するようになりました。

親切なボランティアさんや仲間と歌を聴いたり歌ったり、ゲームをしたり、時にはどこかへ連れて行ってもらったり…。どんどん元気になって、時にはジョーダンも言うようになりました。ミニデイは外に出るきっかけをつくってくれました。今では毎日忙しく過ごしています。いつまでも、いつまでも皆さんと一緒にできる事を心から願っております。



## ホット待<sup>タイ</sup>夢



最近許せないと思うのは、国際貢献活動中、命を落とされた伊藤和也さんについて、覚悟の上で海外援助団体のスタッフとして活動をされていたとはいえ、人間を人間とも思わないテロ集団に殺されたのは残念で許せない。

今時の若者は・・・と言われているが、外国まで行き恵まれない人々へ奉仕活動をする崇高な心を持つ若い人がいることを日本の誇りと思う。

私たち愛逢は彼に負けぬ優しいスタッフが揃っていると自負している。ご用のある時はいつでもお出かけ下さい。沢山の愛に出逢えることでしょう。 <淑女>